

■2019年度 自己評価結果

評価点 4:適切 3:ほぼ適切 2:やや不適切 1:不適切

大項目		具体的な評価ポイント		評価点	現状と課題
Ⅰ	教育理念・目標	1	学校理念・目的・育成人材像は定められているか(専門分野の特性が明確になっているか)	3.6	本校の建学の精神である「実学と人間教育」を教育理念とし、各学生の就職目標に応じた知識、技術を身に付けるための実務教育を主体とした学習内容に加え、社会人としての一般常識、マナーなどをバランスよく習得できるような授業計画を立てている。 時代に即応した実践教育を行い、ファッション製品の企画・生産、流通、販売促進などの業務を通じて、アパレル業界で活躍できる人材の養成を目的とする。 明確な目的意識や自己研鑽の意識の薄い学生も多く、就職に向けての意識付けが困難に感じられる場面も多い。
		2	学校における職業教育の特色は明確であるか	3.6	
		3	社会経済のニーズ等を踏まえた学校の将来構想を抱いているか	3.4	
		4	学校の理念・目的・育成人材像・特色・将来構想などが学生・保護者等に周知されているか	3.4	
		5	各学科の教育目標、育成人材像は、学科等に対応する業界のニーズに向けて方向づけられているか	3.3	
Ⅱ	学校運営	1	目的等に沿った運営方針が策定されているか	3.6	学校法人の運営は、毎年度策定している事業計画に基づいて実行している。運営方針を含めた事業計画は、年度ごとに「理事会」「評議員会」において審議され、決定している。 本学全体の運営に関わる「自己点検・評価委員会」「学校関係者評価委員会」は既定の委員により協議決定して実施する。
		2	運営方針に沿った事業計画は定められているか	3.7	
		3	運営組織や意思決定機能は、規則等において明確化されているか、有効に機能しているか	3.6	
		4	人事、賃金面での処遇に関する制度は整備されているか	3.7	
		5	教務・財務等の組織整備など意思決定システムは整備されているか	3.6	

大項目		具体的な評価ポイント		評価点	現状と課題
Ⅱ	学校運営	6	業界や地域社会等に対するコンプライアンス体制が整備されているか	3.6	
		7	教育活動等に関する情報公開が適切になされているか	3.9	
		8	情報システム化等による業務効率化が図られているか	3.3	
Ⅲ	教育活動	1	教育理念等に沿った教育課程の編成・実施方針等が策定されているか	3.4	教員の専門性を高めるための各種研修会、セミナーへの参加、研究発表への参加などは、今年度はおおむねオンラインにて行うこととなった。移動、拘束時間の制限が緩くなった分、多くの教員が研修などの参加でき、常に社会、業界の動向をキャッチし、新しい情報を収集し、世情に合った授業内容の刷新を図っている。 学生の授業においてもコロナ対応として遠隔授業、分散授業を取り入れ、通常の授業内容と質、量ともに大きな変化のないよう工夫をしている。 今後も収束の気配が感じられない感染症の拡大を防ぐため、学内での安全策の実施と、実技、実習を中心に学習するという専門学校の特色をどのように両立させるかはさらに検討の余地がある。 アパレル企業各社との連携を密にし、アパレル業界のニーズにあったカリキュラム実施に向けて検討する体制を整えているが、コロナ禍により各企業の求める人材像にも変化が感じられる。
		2	教育理念、育成人材像や業界にニーズを踏まえた学科の修業年限に対応した教育到達レベルや学習時間の確保は明確にされているか	3.7	
		3	学科等のカリキュラムは体系的に編成されているか	3.7	
		4	キャリア教育・実践的な職業教育の視点に立ったカリキュラムや教育方法の工夫・開発などが実施されているか	3.7	
		5	関連分野の企業・開発施設や業界団体等との連携により、カリキュラムの作成・見直し等が行われているか	3.7	
		6	関連分野における実践的な教育産業（産学連携によるインターンシップ、実技・実習等）が体系的に位置づけられているか	3.7	
		7	授業評価の実施・評価体制はあるか	3.6	
		8	職業教育に対する外部関係者からの評価を取り入れているか	4.0	

大項目		具体的な評価ポイント		評価点	現状と課題
Ⅲ	教育活動	9	成績評価・単位認定、進級・卒業判定の基準は明確になっているか	3.7	
		10	資格取得等に関する指導体制、カリキュラムの中での体系的な位置づけはあるか	4.0	
		11	人材育成目標の達成に向け授業を行うことができる要件を備えた教員を確保しているか	3.7	
		12	関連分野における業界等との連携において優れた教員（本務・兼務含む）を確保するマネジメントが行われているか	3.6	
		13	関連分野における先端的な知識・技能等を修得するため、教員に向けての研修や指導力育成など資質向上のための取組が行われているか	3.4	
		14	職員の能力開発のための研修等が行われているか	3.4	
Ⅳ	学修成果	1	就職率の向上が図られているか	3.7	本学は担任制をとっており、各担任が就職部と連携を取り、各学年の「就職特別講座」や「進路報告書」の記入・提出を徹底している。 就職の内定率は下記のようにしており、目標の100%、もしくはそれに近い結果を出している。今後も継続できるよう支援の強化を図っていく。 2017年度 100.0% 2018年度 98.5% 2019年度 100.0% 2020年度 95.7% 資格取得に関しては、各学科において必要とされる検定を必修とし、授業内で取り組んでいる。昨年よりも合格率が上向いている検定もあり、今後も授業内容や指導方法の検討を重ねたい。
		2	資格取得率の向上が図られているか	3.7	
		3	退学率の低減が図られているか	3.4	
		4	卒業生・在校生の社会的な活躍及び評価を把握しているか	3.4	
		5	卒業後のキャリア形成への効果を把握し、学校の教育活動の改善に活用されているか	3.7	

大項目		具体的な評価ポイント		評価点	現状と課題
Ⅴ	学生支援	1	進路・就職に関する支援体制は整備されているか	4.0	入学から卒業するまで、学業、課外活動、就職などあらゆる学生支援が必要であるが、本校はそれぞれの目的に沿って支援を行っている。 就職指導は、就職部の担当者主導のもと、教員との連携で支援を行っている。具体的には、エントリーシート記入、就職面接練習、就職対策講座、就職対策テストなどの実施、学内企業説明会の開催である。その結果、就職率のアップに繋がっている。 中途退学者率を極力減少させることを目標に担任は保護者、教務との連携を密にして退学に結びつきやすい状況を的確に把握し、対応できる指導体制を強化しているが、一部のクラス担当教員に、各所への連絡の遅れ、漏れが散見する。 学生の経済的支援としては、奨学金を必要としている学生が申込の機会を逃すことのないよう、本校独自の奨学金制度や、国の就学支援策などを随時説明している。
		2	学生相談に関する体制は整備されているか	3.9	
		3	学生に対する経済的な支援体制は整備されているか	3.9	
		4	学生の健康管理を担う組織体制はあるか	3.9	
		5	課外活動に対する支援体制は整備されているか	3.4	
		6	学生の生活環境への支援は行われているか	3.6	
		7	保護者と適切に連携しているか	3.7	
		8	卒業生への支援体制はあるか	3.4	
		9	社会人のニーズを踏まえ教育環境が整備されているか	3.7	
		10	高校・高等専修学校等との連携によるキャリア教育・職業教育の取組が行われているか	3.3	
		11	関連分野における業界との連携による卒後の再教育プログラム等が行われているか	3.4	

大項目		具体的な評価ポイント		評価点	現状と課題
Ⅵ	教育環境	1	施設・設備は、教育上の必要性に十分対応できるよう整備されているか	3.9	縫製やドレーピング、パターンメイキングなど、ファッション造形に関する備品(ミシン、特殊ミシン、アイロン、ボディなど)や、IT機器などの施設・設備は、教育の必要性に応じて整備充実を図っており、それらのメンテナンスにも配慮しているが、一部に経年劣化のため買い替えが必要な備品がみられる。 校舎は8年前に耐震工事を完了し、安全が確保されている。また、校内外の清掃は専門業者により行き届いており、清潔な教育環境が整っている。
		2	学外研修、海外研修、インターンシップ、等について十分な教育体制を整備しているか	3.9	
		3	防災に対する体制は整備されているか	3.3	
Ⅶ	学生募集	1	学生募集活動は、適正に行われているか	3.9	学校経営の基盤である学生募集については、教員をはじめ全職員が連携し取り組むべきであるが、業務過多のため意識の薄い教員もいる。 毎年100校以上、教員による高校訪問を行ってきたが、今年度はコロナの影響で大幅に訪問数が減少した。次年度への影響が懸念される。 同種の全国的な有名校と比較しやや認知度が低い印象があるため、認知度を高めるために学校案内(冊子)、WEBサイト、SNSなど広告宣伝は、毎年高校生の動向を見つつ行っている。 今年度からは時勢を見てオンラインでのオープンキャンパスにも新規に取り組んでいる。入学選考については、選考基準を明確化し適切に運用している。 学納金については、社会の経済状況、あるいは他校の状況に鑑み、適切な金額を設定している。
		2	学生募集活動において、教育成果は正確に伝えられているか	3.4	
		3	入学選考は適切かつ公平な基準に基づき行われているか	3.6	
		4	学納金は妥当なものとなっているか	4.0	
Ⅷ	財務	1	中長期的に学校の財務基盤は安定しているといえるか	3.7	監査報告書により、学校法人中西学園の業務若しくは財産の状況または理事の業務執行の状況に関し、不正行為又は法令若しくは寄附行為に違反する重大な事実はないことが確認されている。
		2	予算・収支計画は有効かつ妥当なものとなっているか	3.9	
		3	財務について会計監査が適正に行われているか	3.9	
		4	財務情報公開の体制整備はできているか	3.7	

大項目		具体的な評価ポイント		評価点	現状と課題
IX	法令等の遵守	1	法令、専修学校設置基準等の遵守と適正な運営がなされているか	3.7	監査報告書により、学校法人中西学園の業務若しくは財産の状況または理事の業務執行の状況に関し、不正行為又は法令若しくは寄附行為に違反する重大な事実はないことが確認されている。 法令、設置基準などの遵守と適正な運営については、学則、規程、規則などを法令、設置基準に基づき策定しており、改正があると速やかに対応し、広く社会の信頼を得ることに努めている。 また、教職員・学生などに対する啓蒙活動については、校長会議、職員会議などで周知徹底を図り、学生に対しては、年度初めのオリエンテーション時に学則、規則の説明を行っている。
		2	個人情報に関し、その保護のための対策がとられているか	3.7	
		3	自己評価の実施と問題点の改善を行っているか	3.6	
		4	学校自己評価の結果を公開しているか	3.6	
X	社会貢献・地域貢献	1	学校の教育資源を活用した社会貢献・地域貢献を行っているか	3.7	社会貢献、地域貢献により社会とのつながりを深めることは、学生を教育するうえでも大切なことと捉えて推進している。 社会人教育のための講座を土曜などに開校するとともに、地域の各団体と積極的にコラボレーションし、ファッションショーやイベントへの参加を通してかかわりを深めているが、2020年度はコロナの影響で各種イベントが軒並み中止となり残念だった。
		2	学生のボランティア活動を奨励、支援しているか	2.8	
		3	地域に対する公開講座・教育訓練の受託等を積極的に実施しているか	3.6	
XI	国際交流	1	留学生の受け入れ・派遣、在籍管理等において適切な手続き等が取られているか	3.7	少数の留学生が入学を希望する場合がある。会話などには不自由ないが、書類記入や課題作成などには担当者のきめ細かな配慮が必要である。 ファッション流通科の授業の一環として行っている「タンザニアフィリア」ともコラボファッションショーだが、今年度はコロナの影響のため、イレギュラーな開催となった。また恒例となっていた海外研修旅行も、残念ながら催行中止となった。
		2	留学生の受け入れ・派遣について戦略をもって行っているか	3.7	
		3	留学生の学修・生活指導等について学内に適切な体制が整備されているか	3.6	
		4	学修成果が国内外で評価される取り組みを行っているか	3.6	

2020 年 12 月 20 日

学校関係者評価委員会報告書

名古屋ファッション専門学校
学校関係者評価委員会

2020 年度は新型コロナウイルス感染症の影響により、委員の皆様に来校いただいていた学校関係者評価委員会開催が難しかったため、書面にてご意見を頂戴し、委員会開催に替えました。内容を以下の通り報告いたします。

1. 学校関係者評価委員会出席者（順不同・敬称略）

名古屋帽子協同組合 理事長 林幸春
株式会社織研新聞社名古屋支社 名古屋業務部課長 久保寺恭稔
駐日タンザニア大使館商業文化交流中部地区 名誉代表 清水邦子
株式会社福文堂 代表取締役 服部正弘
D h a l 代表 水谷美知
名古屋ファッション専門学校 前校長 井後治子
名古屋ファッション専門学校 卒業生 高山聡美
名古屋ファッション専門学校 校長 佐藤弥生
名古屋ファッション専門学校 教務主幹 桐谷里砂

2. 学校関係者評価委員会開催方法

2020 年 11 月 1 日（日）から 11 月 30 日（月）
送付資料をご覧いただき、書面にてご意見を頂戴しました。

3. 送付資料

- ① 学校関係者評価委員会報告書
- ② ②2019 年度 自己評価結果
（教育理念・目的・人材育成像、学校運営、教育活動、学修成果、学生支援、教育環境、
学生の募集と受入れ、財務、法令等の遵守、社会貢献・地域貢献）
- ③ 2019 年度 学内外行事記録
- ④ 2019 年度 クラス別就職状況

4. 報告内容

上記資料送付をご覧いただいたうえ、各委員様それぞれのお立場から本校へのご意見をいただきました。（別紙）

(別紙)

I. 教育理念・目標

現状と課題	本校の建学の精神である「実学と人間教育」を教育理念とし、各学生の就職目標に応じた知識、技術を身に付けるための実務教育を主体とした学習内容に加え、社会人としての一般常識、マナーなどをバランスよく習得できるような授業計画を立てている。時代に即応した実践教育を行い、ファッション製品の企画・生産、流通、販売促進などの業務を通じて、アパレル業界で活躍できる人材の養成を目的とする。 明確な目的意識や自己研鑽の意識の薄い学生も多く、就職に向けての意識付けが困難に感じられる場面も多い。
<学校関係者評価委員会> 評価、改善提案、助言など	昨年の学生動向などを資料などから全体的に理解させていただくと、目的意識が乏しい、意識付けが困難、真面目に取り組まなくても卒業できる、他力本願的な様子、などが見受けられる。
<学校> 改善案など	学生の意識改革のため、「再審査」や「特別認定講座」など、進級システムの見直しを行い、自らの学習内容を把握し、自己研鑽できるような学生を育てたい。

II. 学校運営

現状と課題	学校法人の運営は、毎年度策定している事業計画に基づいて実行している。運営方針を含めた事業計画は、年度ごとに「理事会」「評議員会」において審議され、決定している。 本学全体の運営に関わる「自己点検・評価委員会」「学校関係者評価委員会」は既定の委員により協議決定して実施する。
<学校関係者評価委員会> 評価、改善提案、助言など	コロナ禍において通常の動きが制限されているが、今回の委員会開催のように、資料の送付などを工夫して、外部の意見を積極的に取り入れたいという姿勢は大変良いと感じる。
<学校> 改善案など	今後もファッション業界の動向をしっかりと捉え、学校運営の方向性を策定したい。

III. 教育活動

現状と課題	教員の専門性を高めるための各種研修会、セミナーへの参加、研究発表への参加などは、今年度はおおむねオンラインにて行うこととなった。移動、拘束時間の制限が緩くなった分、多くの教員が研修などの参加でき、常に社会、業界の動向をキャッチし、新しい情報を収集し、世情に合った授業内容の刷新を図っている。学生の授業においてもコロナ対応として遠隔授業、分散授業を取り入れ、通常の授業内容と質、量ともに大きな変化のないよう工夫をしている。 今後も収束の気配が感じられない感染症 no 拡大を防ぐため、学内での安全策の実施と、実技、実習を中心に学習するという専門学校の特色をどのように両立させるかはさらに検討の余地がある。
-------	---

	アパレル企業各社との連携を密にし、アパレル業界のニーズにあったカリキュラム実施に向けて検討する体制を整えているが、コロナ禍により各企業の求める人材像にも変化が感じられる。
<学校関係者評価委員会> 評価、改善提案、助言など	コロナウィルス感染症により、学生の気持ちがどれだけ傷ついているか伝わってくる。ネガティブな状況から抜け出すためには、希望、夢を持たせることが必要と思われる。この時代だからできることを授業に取り入れる事が必要、例えばデザインはネット上に公開、発表、審査など。若者は承認欲求が強く、インスタ、you tube、ストーリーなどにより褒められたいのでは。そのような経験をさせたうえで本人自身が技能を勉強することの必要性、就職にも有利ということを確認させていくべき。 コロナ禍で入学してきた新1年生は「こんな事がしたい」「これを勉強したい」という夢が少し遠のき、喪失感が広まっているように感じられる。 先生方の授業も様々な面で“手探り”状態であり、「実学」を教育理念としている御校にて、「実習を通して現場に出てすぐに活躍できる人材を育てたい」と思っている先生方の歯がゆさもあるかと思う。コロナ禍での専門学校での実習というのは、来年度も続くと思われるため、本当の意味での“専門学校生のスキル”というのが、試される時代に入ったと思われる。どのようにして各個々の才能を開花させるか、それをどのように企業にアピールできるかが重要な気がする。大学ではできない、専門学校ならではの、よりきめ細かい、学生に寄り添った教育が必要と感じる。 実際に現場で問われるモノ、能力について、個人的には、度胸、忍耐力、想像力があればいかなる場面でもある程度は適応できていると思っている。その為に必要なのは、どれだけ遊んできたか、どれだけ集中して好きな事に取り組んできたかではないか。“もっと厳しく”というご意見もあったが、楽しくも面白くもない事に人は集中できない。だとしたら、厳しさの形を少し変えたりしてみてもどうかと思った。学校のカリキュラムの中には余白が無く、しっかりと学習する目的ばかりなので、もっと別分野（例えば音楽家や写真家やスポーツ等）のプロの方をお呼びする授業等、生徒がカルチャーを学べるクラス（次第に自身で追及したくなる）があっても良いのではないかと思う。極端な話、クラスで寝ていても辞めたくない学校にしていく事も大切なのか。学校が終わればアルバイトで好きなことを追求する時間がないとお聞きしたが、学校で、何か追求したくなることを知るチャンスを与えてあげるべきではないかと思う。
<学校> 改善案など	教職員がアパレル企業に勤務している卒業生と連絡を取り、企業、業界の実情を聞く機会を数回持った。それにより、授業の内容や進め方に多くのヒントが得られた。 学生が満足し、結果を出せるような授業を行うため、遠隔授業などを組み合わせ、更に工夫していきたい。

IV. 学修成果

現状と課題	本学は担任制をとっており、各担任が就職部と連携を取り、各学年の「就職特別講座」や「進路報告書」の記入・提出を徹底している。 就職の内定率は下記のようになっており、目標の 100%、もしくはそれに近い結果を出している。今後も継続できるよう支援の強化を図っていく。 2017 年度 100.0% 2018 年度 98.5% 2019 年度 100.0% 2020 年度 95.7% 資格取得に関しては、各学科において必要とされる検定を必修とし、授業内で取り組んでいる。昨年よりも合格率が上向いている検定もあり、今後も授業内容や指導方法の検討を重ねたい。
<学校関係者評価委員会> 評価、改善提案、助言など	時代は間もなく「5G 時代」へと進み、これまでの社会通念や常識、慣習が大きな変化を遂げる。しかし、その一方で SNS の普及により企業間やチーム間だった取り組みがよりパーソナリティを必要とされる社会へと進展していく気がする。「デジタルと SDG's の融合」が求められてくると思う。その意味では既成概念にとらわれない若い世代の活躍の場は徐々に広がっていくと見ており、時代の要請や社会構造の変化にも目を向けた講義も必要になってくると感じている。また、その一方で「アパレル業界で活躍できる人材の養成」というファッション系専門学校の使命も当然重要である。しかし、コロナ禍で衣料関連業界の就職人口は大幅に減少し、非接触型の職種へ転職する事態が生まれている。今一度、人との関りを最も大切にする業界として産官学の連携も重要だと思っている。 「夢のあるファッションビジネス業界への再生」を可能とする人材育成が専門学校としての正念場であり、踏ん張り所だとエールを送りたい。
<学校> 改善案など	コロナ禍における就職状況は、2020 年度より 2021 年度の方がさらに厳しさを増すと予想される。就職担当部署と連携し、企業情報を取り漏らさないよう細心の注意を払ってあたりたい。

V. 学生支援

現状と課題	入学から卒業するまで、学業、課外活動、就職などあらゆる学生支援が必要であるが、本校はそれぞれの目的に沿って支援を行っている。 就職指導は、就職部の担当者主導のもと、教員との連携で支援を行っている。具体的には、エントリーシート記入、就職面接練習、就職対策講座、就職対策テストなどの実施、学内企業説明会の開催である。その結果、就職率のアップに繋がっている。 中途退学者率を極力減少させることを目標に担任は保護者、教務との連携を密にして退学に結びつきやすい状況を的確に把握し、対応できる指導体制を強化しているが、一部のクラス担当教員に、各所への連絡の遅れ、漏れが散見する。
-------	--

	学生の経済的支援としては、奨学金を必要としている学生が申込の機会を逃すことのないよう、本校独自の奨学金制度や、国の就学支援策などを随時説明している。
<学校関係者評価委員会> 評価、改善提案、助言など	中途退学を減少させるためにも、先生の学生への細やかな声掛け、学生と学生とのコミュニケーションと、仲間を通して成長することの大切さを忘れず育てることが重要。 私ども購買部としては、授業に関する教材や、福利厚生的な商材の販売を通じ、学生とのコミュニケーションを図っている。学生が NF ファッションショーの際に「このような材料で作りたい」と希望すれば、あらゆる手段を講じて取引先と連絡を取り、仕入販売している。今の学生は非常にナイーブであり、特にこのコロナ禍によって、1 年生は学校での楽しみ方さえも分からないと感じている。なかなか自分から言葉を発信できない学生に対しても、また留学生に対しても積極的に声をかけ、何かしら学校での楽しみを見つけてもらえればと思う。このコロナの時代だからこそ、当購買部やカフェ、食堂などの施設が、授業以外のキャンパスライフの楽しみを提供するべき存在だと改めて感じている。 コロナ禍において、慣れない環境や授業についていけない不安など、対面授業でフォローする必要があると思う。ソーシャルディスタンスを保ちながら授業を進めていくのは、まだまだ手探り状態な気がするが、感染の状況を見ながらその都度対処していく他、無いように思う。 先生も学生もみんなマスクをしているため、距離を感じると思うので、普通に雑談でも何でも今までより余計に声をかけ、不安や悩みを相談しやすい環境を作ることが大切だと思う。
<学校> 改善案など	今年度はコロナの影響により学生と教職員の接触が少なく、特に新生入生には戸惑いが多かったように感じる。また、留学生が数人入学したが、様々な理由で半数が退学、または除籍となった。それぞれについてのきめ細かな対応策を考えたい。

VI. 教育環境

現状と課題	縫製やドレーピング、パターンメイキングなど、ファッション造形に関する備品（ミシン、特殊ミシン、アイロン、ボディなど）や、IT 機器などの施設・設備は、教育の必要性に応じて整備充実を図っており、それらのメンテナンスにも配慮しているが、一部に経年劣化のため買い替えが必要な備品がみられる。 校舎は 8 年前に耐震工事を完了し、安全が確保されている。また、校内外の清掃は専門業者により行き届いており、清潔な教育環境が整っている。
<学校関係者評価委員会> 評価、改善提案、助言など	校舎の一部が西棟から東棟に移転し、特別教室やパソコン教室などが刷新され、動線などもスムーズになった。

	他の専門学校と比較しても設備的に見劣りするところは感じられない。 コロナ対応として、日々の清掃、消毒や手洗いなど生活習慣の励行がきちんと行われており、学生の保護者も安心すると思う。
<学校> 改善案など	引き続きコロナ対策としての清掃、消毒を行い清潔な環境を整えると共に、プロジェクター機器の増設など、密を避けるための工夫、改善を続けたい。

VII. 学生募集

現状と課題	学校経営の基盤である学生募集については、教員をはじめ全職員が連携し取り組むべきであるが、業務過多のため意識の薄い教員もいる。 毎年 100 校以上、教員による高校訪問を行ってきたが、今年度はコロナの影響で大幅に訪問数が減少した。次年度への影響が懸念される。 同種の全国的な有名校と比較しやや認知度が低い印象があるため、認知度を高めるために学校案内（冊子）、WEB サイト、SNS など広告宣伝は、毎年高校生の動向を見つつ行っている。 今年度からは時勢を見てオンラインでのオープンキャンパスにも新規に取り組んでいる。 入学選考については、選考基準を明確化し適切に運用している。 学納金については、社会の経済状況、あるいは他校の状況に鑑み、適切な金額を設定している。
<学校関係者評価委員会> 評価、改善提案、助言など	人と直接接することが難しいという、今までにない状況ではあるが、「夢のあるファッションビジネス業界への再生」に向けた専門学校としての正念場であり、踏ん張り所だとエールを送りたい。
<学校> 改善案など	コロナの影響で、学生募集についての環境も、一気に大きな変化が起こった感がある。今までに試みたことのない手法にもきちんと対応したい。 高校生対象のデザイン画コンテストの認知度も上がってきたと感じるので、更に拡散したい。

VIII. 財務

現状と課題	監査報告書により、学校法人中西学園の業務若しくは財産の状況または理事の業務執行の状況に関し、不正行為又は法令若しくは寄附行為に違反する重大な事実はないことが確認されている。
<学校関係者評価委員会> 評価、改善提案、助言など	学校法人中西学園の擁する学校ということで、信頼感は大きく感じる。
<学校> 改善案など	さらに財務状態を良好にするため、学生募集に力を入れたい。

IX. 法令等の遵守

現状と課題	監査報告書により、学校法人中西学園の業務若しくは財産の状況または理事の業務執行の状況に関し、不正行為又は法令若しくは寄附行為に違反する重大な事実はないことが確認されている。 法令、設置基準などの遵守と適正な運営については、学則、規程、規則などを法令、設置基準に基づき策定しており、改正があると速やかに対応し、広く社会の信頼を得ることに努めている。 また、教職員・学生などに対する啓蒙活動については、校長会議、職員会議などで周知徹底を図り、学生に対しては、年度初めのオリエンテーション時に学則、規則の説明を行っている。
<学校関係者評価委員会> 評価、改善提案、助言など	特になし
<学校> 改善案など	今後も現状を維持したい。

X. 社会貢献・地域貢献

現状と課題	社会貢献、地域貢献により社会とのつながりを深めることは、学生を教育するうえでも大切なことと捉えて推進している。地域の各団体と積極的にコラボレーションし、ファッションショーやイベントへの参加を通してかかわりを深めているが、今年度はコロナの影響で各種イベントが軒並み中止となり残念だった。
<学校関係者評価委員会> 評価、改善提案、助言など	学生と地域を結びつける試みは継続して欲しい。 このような時代ならば学校から要請があれば、パブリックスペース、百貨店、ファッションビルなどの発表スペースも借りられるのではないかな。
<学校> 改善案など	今後も感染症拡大の様子を見極めながら、できるだけ多くの社会貢献、地域貢献行事に取り組みたい。

XI. 国際交流

現状と課題	少数の留学生が入学を希望する場合がある。会話などには不自由ないが、書類記入や課題作成などには担当者のきめ細かな配慮が必要である。 ファッション流通科の授業の一環として行っている「タンザニアフィリア」ともコラボファッションショーだが、2020年度はコロナの影響のため、イレギュラーな開催となった。また恒例となっていた海外研修旅行も、残念ながら催行中止となった。
<学校関係者評価委員会> 評価、改善提案、助言など	2020年は、昨年同様5月にSMBCパーク栄でのタンザニア紹介の一環として、ファッションショー開催を予定していたが、コロナの影響で開催延期となり、12月の寒い時期のカンガ・ファッションショーという初めての体験となり、冬の季節に行う熱帯の布地を扱ったショーに、学生の皆さんがどのように理解しチャレ

	ンジされるか、タンザニアフィリア始まって以来のことであり楽しみだった。リハーサルなども慣れない場所と時間の調整、コロナ禍の中で声を出せない、密集不可などの厳しい制約の中、熱心に集中してリハーサルをこなして頂き、また、今年も事前授業として、昨年に引き続きタンザニア概略とカラフルな民族布を紹介する機会を頂けた事にも感謝している。学生の皆さんも、熱心に耳を傾け集中して聞いて頂いた。例年であれば、招聘したタンザニアのティンガティンガ作家も同行するのだが、今年はコロナの為、来日叶わず、実際にタンザニアの人々との交流の機会を作ることが出来ず大変残念だった。次の機会には、学生の皆さんと同年代の留学生などとの交流の場を設け、実際に話し交流することにより、現地の人々への理解や関心がさらに深まり、ファッションも通じた交流ができるようサポートさせて頂ければ大変嬉しく思う。
<学校> 改善案など	留学生の受け入れについては、希望者があれば本人の資質、言語能力などを見極め、できる限り対応したい。 今後も感染症拡大の様子を見極めながら、可能な限り多様な国際交流に取り組み、学生の視野を広げたい。

<まとめ>

学校での学びについて皆様より貴重なご意見をいただきました。コロナ禍の状況をふまえ、今までにない状況下でいかに学生の学びの質、量を維持するかを、どの委員の方も大きな問題としてとらえていらっしゃいました。また、コロナの影響がなかったとしても、本校の授業が硬直化せず、学生の成長に柔軟に寄り添うようなものにしていく必要を感じました。今後改善に注力していきたいと思います。

次年度の学校運営について、頂戴したご意見に基づき早々に運営計画をまとめる学内会議を設け、どのような人材を育てることを目標にするのかを最優先とし、その他の目標についても計画実施のプラン作り等の取り組みをする予定です。